

令和2年度 研究紀要 第231号

調査課題研究

ICTの効果的な活用に関する調査

～アンケート結果の報告と考察～

胆振教育研究所



新たな ICT 環境を活用した学びを 実現できる 때가、 もうすぐそこまで来ています！

胆振教育研究所長 野 崎 均
(登別市立緑陽中学校長)

今年度から順次全面実施を迎えている新学習指導要領では、言語能力や問題発見・解決能力等のほかに、情報活用能力が子どもたちの学習の基盤となる資質・能力に加えられると同時に、その能力の育成のために環境整備と情報手段を適切に活用した学習内容の充実を図るよう明示されました。

そして、その告示から4年が経とうとしています。

この間、世界規模でいくつもの異常気象と大規模な災害の発生、第二次世界大戦以降最も困難な危機と言われる新型コロナウイルス感染症の感染拡大、米中を中心としたイノベーションを中核とする覇権争いの激化など、我が国を取り巻く情勢は更に大きく変化をしています。

こうした状況を受け、内閣府は「総合イノベーション戦略 2020」を令和2年7月に閣議決定しました。その中で、この1年の我が国のデジタル化・IT化や世界に先駆けて提唱した Society5.0 実現への遅れを指摘するとともに、今後重点的に取り組むべき課題の一つに「人材育成」を挙げ、「初等中等段階から大学・大学院に至るまでのデータ・AI リテラシー等に関する教育改革や環境整備を更に推進する」としています。このような流れの中の GIGA スクール構想ですので、児童生徒1人1台の端末整備、家庭でも繋がる通信環境の実現等は、今後確実に進められていくと思われれます。そして学校は、今まで以上に時代の要請に見合った教育を担うこととなっていきます。

そこで、本研究所では ICT に関するアンケートを行いました。

その結果、今後具体的にどう取り組んでいけばいいかという点では、多くの学校で戸惑いを感じていることがわかりました。一方、現状の中でできる取組を始めている学校もありました。

そうした学校の実践からは、ICT を活用することが子どもたちの学びをより豊かにする可能性を秘めていると強く感じる事ができました。

新たな ICT 環境を活用した学びを実現できる 때가、もうすぐそこまで来ています。整えられる環境を最大限に生かし、子どもたちの可能性を引き出すために、指導する私たち一人一人が大きく変わるときでもあります。それぞれが試行錯誤にある今、本紀要が少しでも皆様方の力になることを心より願っております。

最後になりますが、本紀要作成にあたり、アンケートに答えていただいた学校の皆様方に感謝申し上げます、発刊の挨拶といたします。



○巻頭言	胆振教育研究所長 野 崎 均	
○本調査の概要		1
○アンケート結果		
① 「ICT を効果的に活用するための校内体制」 について		2
② 「ICT を効果的に活用するために必要な環境整備」 について		4
③ 「ICT を効果的に活用した学習活動の充実」 について		6
Column 1 「1 分間当たりの文字入力数」		13
Column 2 「クラウドって何？」		13
Column 3 「ICT 活用ポータルサイト」		14
Column 4 「PISA 調査 2018 より」		15
Column 5 「GIGA スクール構想」		16
○本調査を通して見えてきたこと		17
○資 料		
ICT を活用した教師の指導力向上のために必要なこと		20
情報活用能力		21
情報活用能力調査の結果		22
洞爺湖町立洞爺湖温泉小学校「公開研究会リモート研究協議へ向けた取組」		23
登別市立鷺別中学校「オンライン学習」「Google Classroom 導入へ向けて」		28
登別市立緑陽中学校「使い方を知り、校務に役立てる」		29
○参考資料		31
○令和 2 年度 胆振教育研究所所員一覧		31
○あとがき		32



■調査の趣旨及び目的

平成29年3月に告示された新学習指導要領の総則では、小・中ともに以下のように示されています。

各学校においては、児童（生徒）の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。小・中：第1章 第2の2の(1)

今回の改訂において、「情報活用能力」を言語能力等と同様に学習の基盤となる資質・能力として明確に位置付けました。「情報活用能力」を育成することは、将来の予測が難しい社会において、情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見いだした情報を活用しながら他者と協働し、新たな価値の創造に挑んでいくために重要です。

また、「校内通信ネットワークの整備」や「児童生徒1人1台端末の整備」などGIGAスクール構想の実現に向けての取組が国によって進められており、コロナ禍で新たな学習活動の方策が模索される中、ICTの環境整備は重要課題となっています。臨時休校が長引き、2023年度を目標としていた児童生徒1人1台のPC 端末整備についても、今年度内までに実現を目指す方針です。

上記の状況から Society5.0時代を生きる子どもたちにとって、ICTを基盤とした先端技術等を効果的に活用した多様な学習活動の展開の充実が資質・能力の育成の鍵であり、これは「情報活用能力」だけでなく、「言語能力」「問題発見・解決能力」等あらゆる資質・能力に繋がるものです。つまり、「令和時代のスタンダードな学校像」が期待をされているのです。

そこで、本調査では、子どもたちに情報活用能力の育成を図り、ICTを活用した教師の指導力向上のために必要と思われる「ICTを効果的に活用するための校内体制」「ICTを効果的に活用するために必要な環境整備」「ICTを効果的に活用した学習活動の充実」の3点についてアンケートを行いました。胆振管内の小中学校の現状と課題を把握・分析し、関連する情報や各地域の実践を紹介するという形で各校に還元することでICTを活用した指導力の向上に役立ててもらおうと考え、本調査に取り組むことといたしました。

■回答者

胆振管内（苫小牧市、室蘭市を除く）の小・中学校の先生に調査を行い、管内の小学校36校、中学校16校、計52校にご回答いただきました。

■回答方法

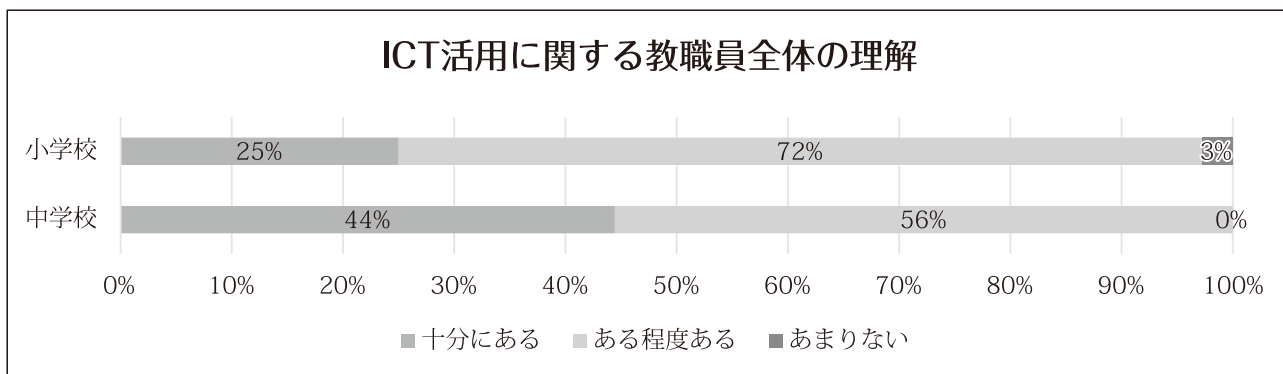
今回の調査では、ICTに関する「ICTを効果的に活用するための校内体制」「ICTを効果的に活用するために必要な環境整備」「ICTを効果的に活用した学習活動の充実」の3点について、回答用紙に選択肢から当てはまるものを選び、番号で回答していただきました。記述式の回答については、一部編集して取りまとめて掲載させていただいております。

アンケート結果



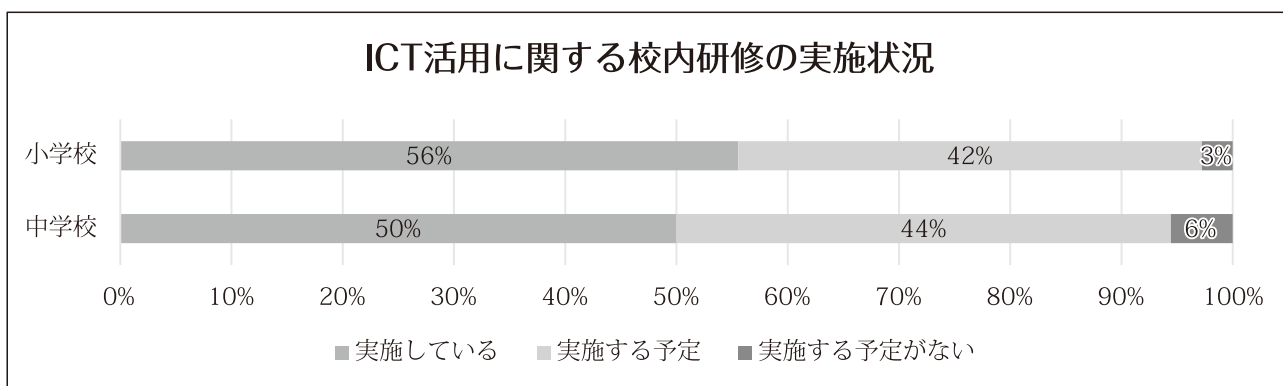
① 「ICT を効果的に活用するための校内体制」について

(1) ICT 活用に関する教職員全体の理解はありますか。



○小学校・中学校共に「十分ある」と「ある程度ある」を合わせて90%を超えています。

(2) ICT 活用に関する校内研修の実施状況について教えてください。



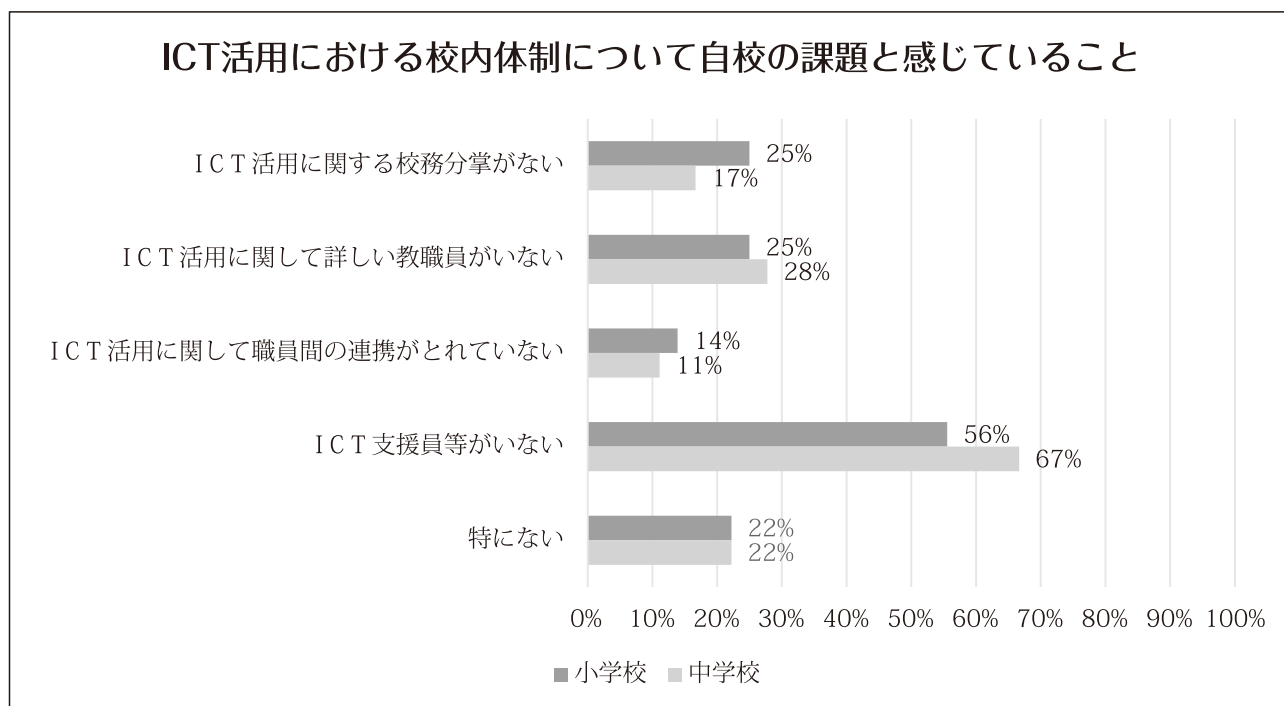
(2)において、「3 実施する予定がない」を選択した場合、その理由について記述してください。

- 町内としての環境がまだ十分ではなく、計画段階で各校での本格的な研修は時期尚早なため。
- 今年度については、臨時休校による授業時数の確保で7時間授業を実施しているため、会議の時間がなかなかとれないため。

○小学校・中学校共に50%を超える学校がICT活用に関する校内研修を既に実施しており、今後実施する予定を合わせると90%を超えています。

(3) ICT 活用における校内体制について自校の課題と感じていることはありますか。

(複数回答可)



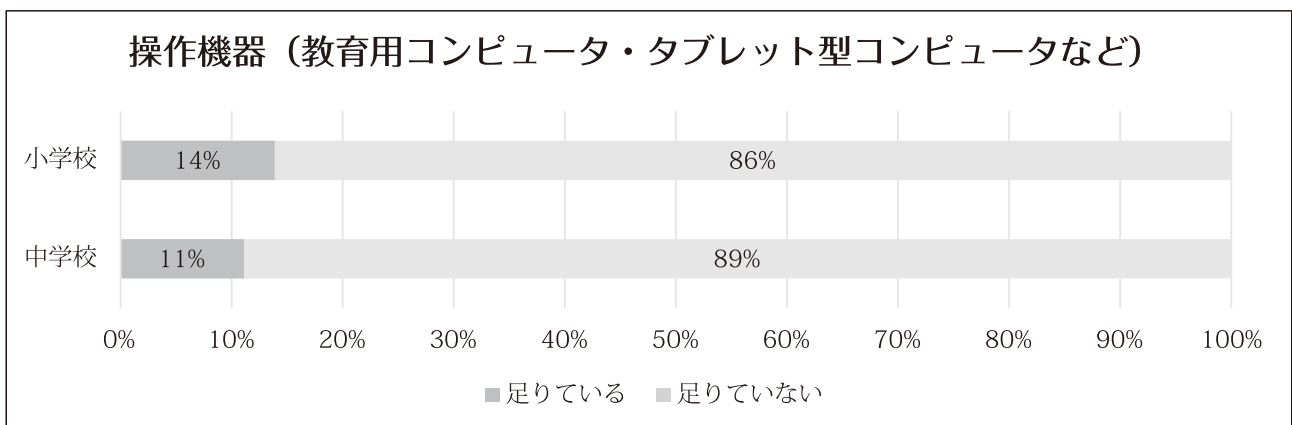
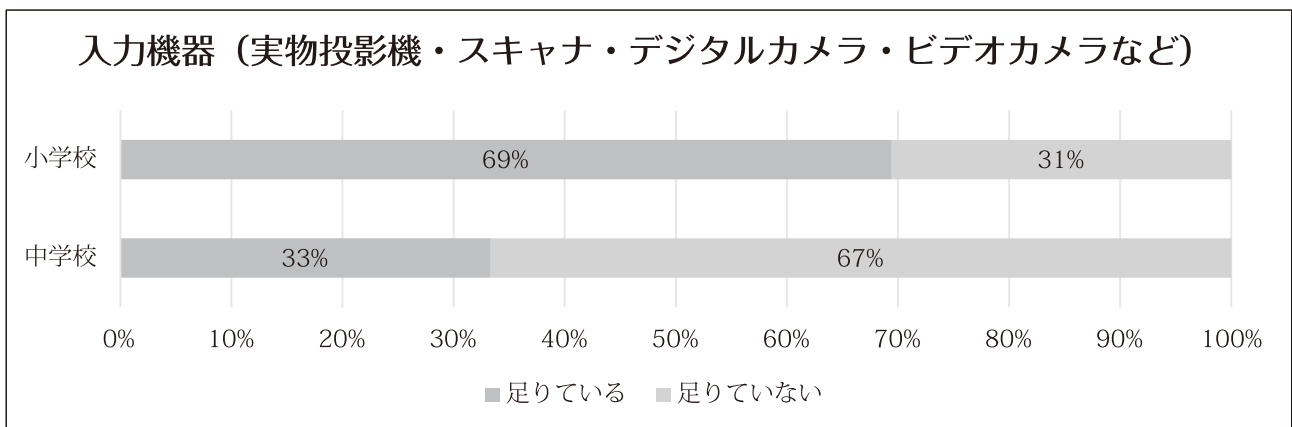
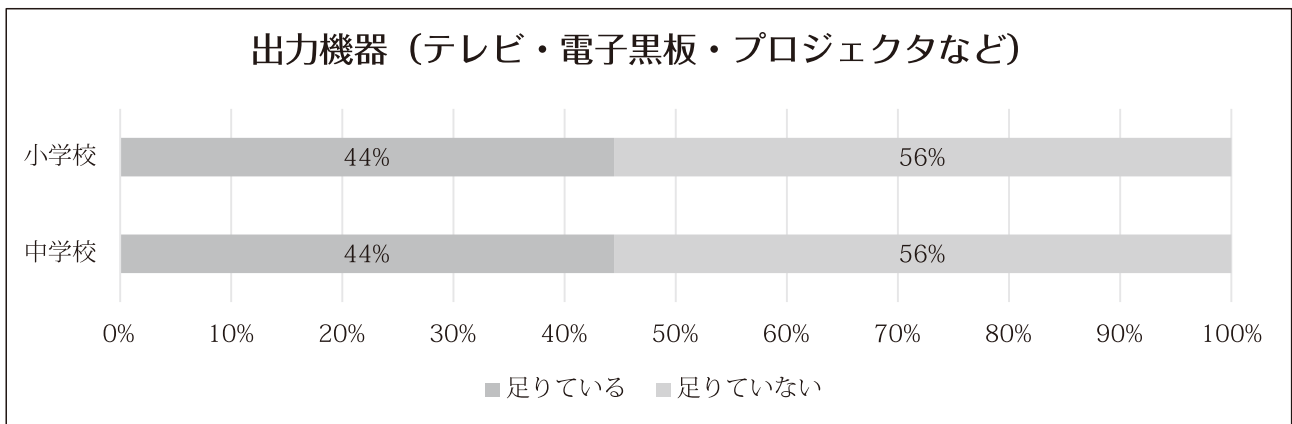
※その他（記述）

- 機器や環境が揃っていないため、現段階では実施が困難。児童用端末の配置と、ネットワークの高速化が終わり次第、研修に取り組む予定。
- ICTを十分に活用するだけの機器や環境にやや課題がある。
- 環境が整っていない。
- C4thの導入が決まり、効果的に活用していけるかの不安が残っている。
- ICT機器の数量が十分ではないように感じる。また、現在の状況（情勢）に合った機材があるのか不安である。
- ICTに対するスキルが教職員間で大きな差があり、統一した指導への研修も時間が十分とはいえない。
- ハード面に関して十分な体制が整っていない。（年度内には整備される予定）
- オンラインや Wi-Fi環境が十分に整備されていない。

- 小学校・中学校共に「ICT支援員等がない」の割合が最も高いです。
- 一方、自校の課題が「特にない」の割合も22%あります。

② 「ICT を効果的に活用するために必要な環境整備」について

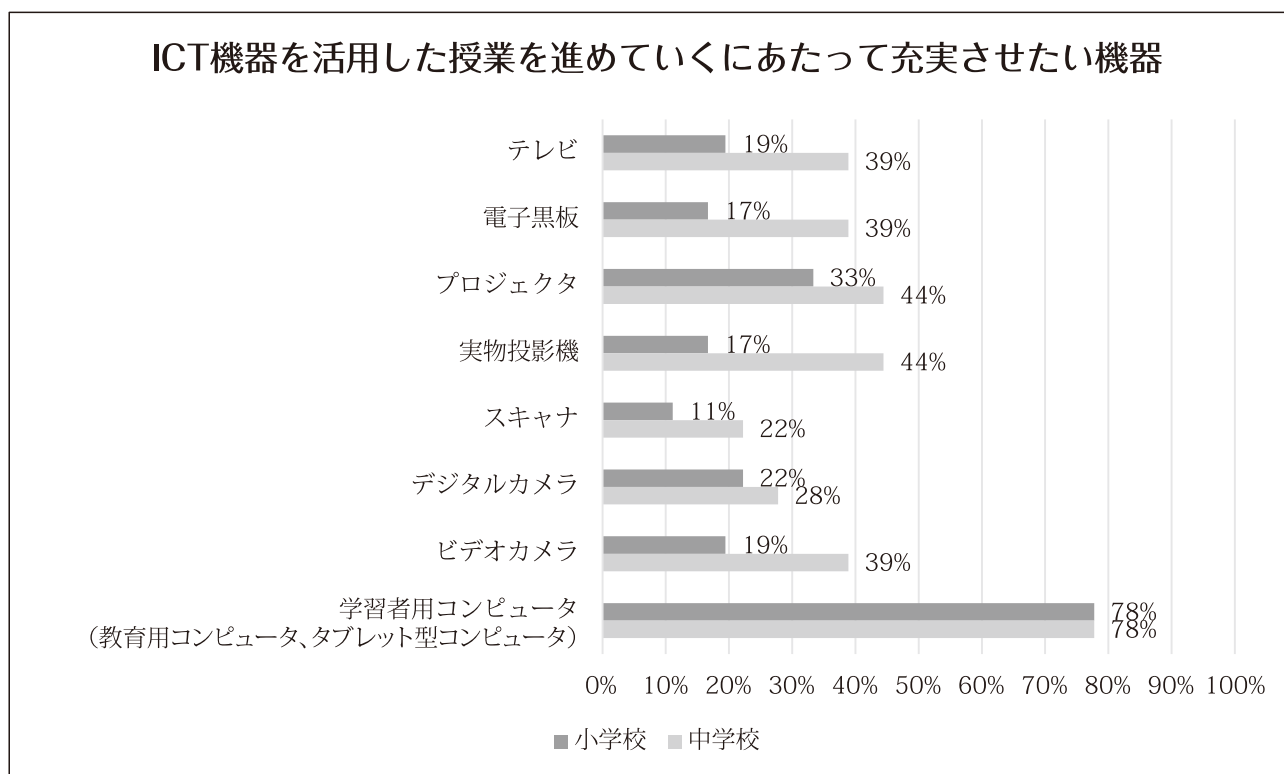
(1) ICT 機器の設置状況についてお聞きします。



- 出力機器については、小学校・中学校共に「足りていない」の割合がやや高いです。
- 入力機器については、小学校では「足りている」の割合が高く、中学校では「足りていない」の割合が高いです。
- 操作機器については、小学校・中学校共に「足りていない」の割合が非常に高いです。

(2) ICT 機器を活用した授業を進めていくにあたって充実させたい機器は何ですか。

(複数回答可)



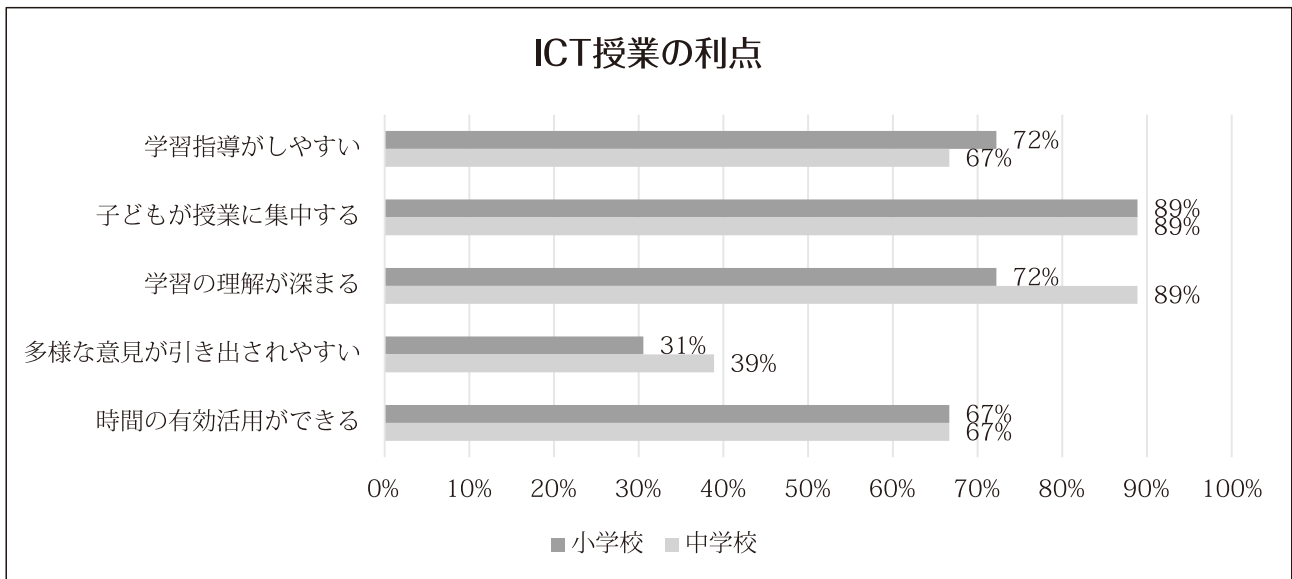
※その他 (記述)

- 各教室に設置しているテレビが老朽化により故障し始めている。
- コンピュータ室に配置された PC が、特別支援学級在籍の児童数がカウントされず、授業で使うのに 1 台不足している状況の学年がある。
- 強靱な Wi-Fi などの学校内でのネット環境整備。
- 教室での児童のネット環境と端末。
- WEB カメラ
- GIGA スクール構想によりタブレット端末が全児童分当たる見込み。
- ストレスのない Wi-Fi 環境 (LAN 環境も含む) など。
- 投影用スクリーン
- 教員用コンピュータ、教員用タブレット、Wi-Fi 環境
- 指導者用パソコン (処理速度が速いパソコン)

- 小学校・中学校共に1番に充実させたい機器は「学習者用コンピュータ」でした。
- 小学校で2番目に充実させたい機器は、「プロジェクタ」でした。
- 中学校で2番目に充実させたい機器は、「プロジェクタ」と「実物投影機」でした。

③ 「ICT を効果的に活用した学習活動の充実」について

(1) ICT 授業の利点として感じていることは何ですか。(複数回答可)



※その他 (記述)

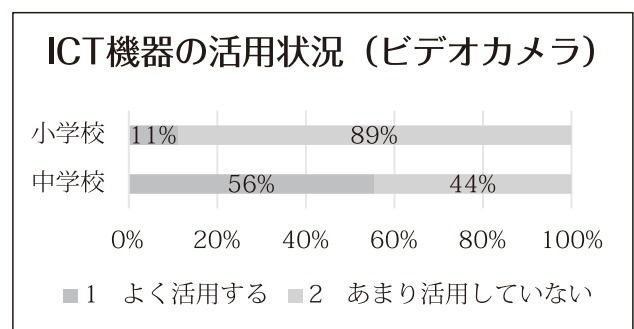
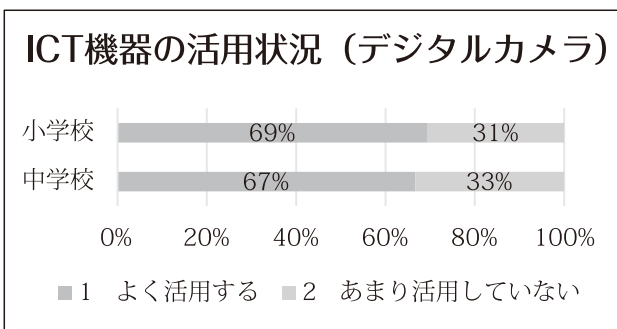
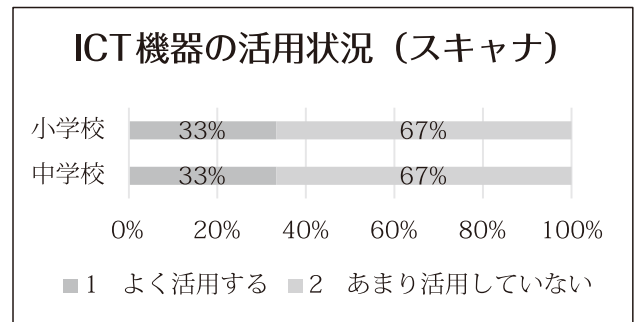
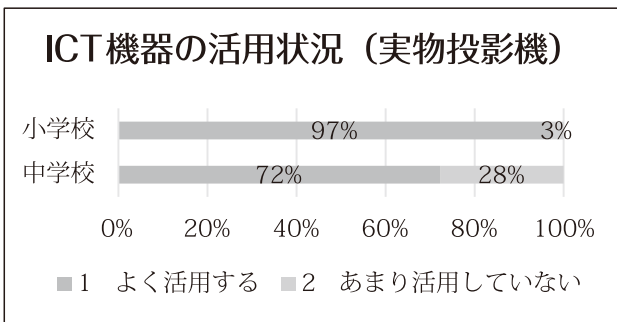
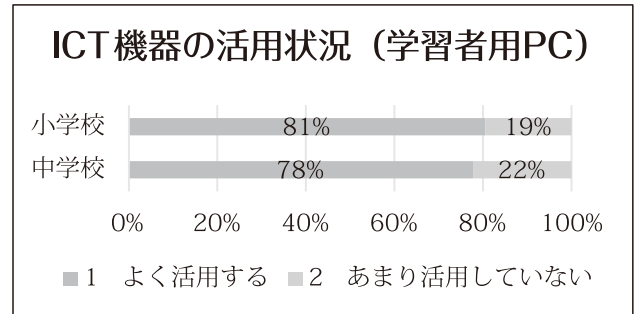
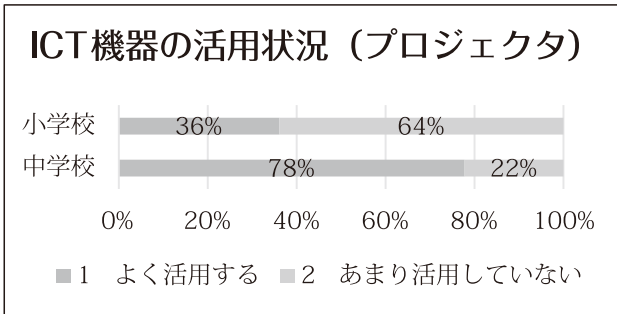
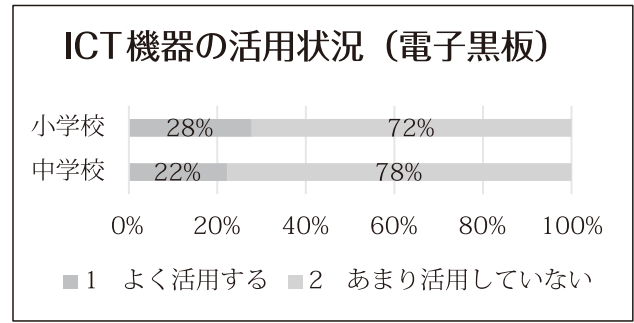
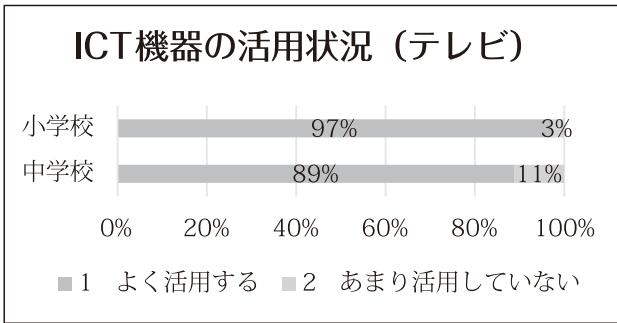
- 休校中にも対応できる。
- 授業の流れをつかみやすい。タイムマネジメントしやすい。
- 既習事項の復習。オンライン学習。

○小学校では「子どもが授業に集中する」を1番の利点として考えています。

○中学校では「子どもが授業に集中する」「学習の理解が深まる」を1番の利点として考えています。

○小学校・中学校共に、「多様な意見が引き出されやすい」が最も低い割合となりました。

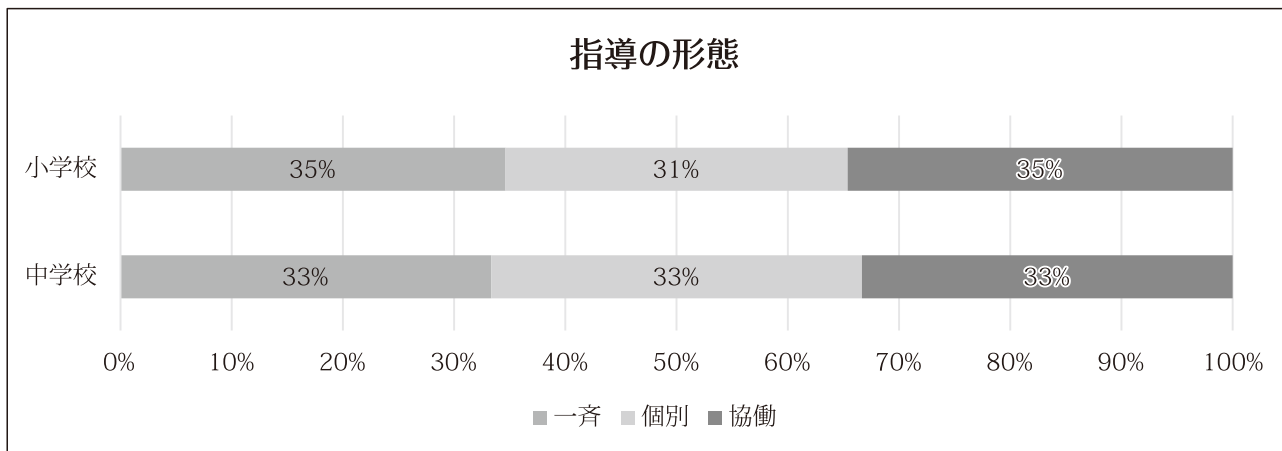
(2) ICT 機器の活用状況について教えてください。



- 小学校・中学校共に活用がよくされている機器は、「テレビ」「学習者用コンピュータ」「実物投影機」「デジタルカメラ」でした。
- 小学校・中学校共に活用がよくされていない機器は、「電子黒板」「スキャナ」でした。
- 「プロジェクタ」と「ビデオカメラ」は、中学校では「よく活用する」の割合が多く、小学校では「あまり活用していない」の割合が多くなりました。

(3) ICT 機器を活用した効果的な指導の実践事例があれば教えてください。

【指導の形態】



○指導の形態は、小学校・中学校共に「斉」「個別」「協働」がそれぞれ同じ程度の割合でした。

【指導の形態】

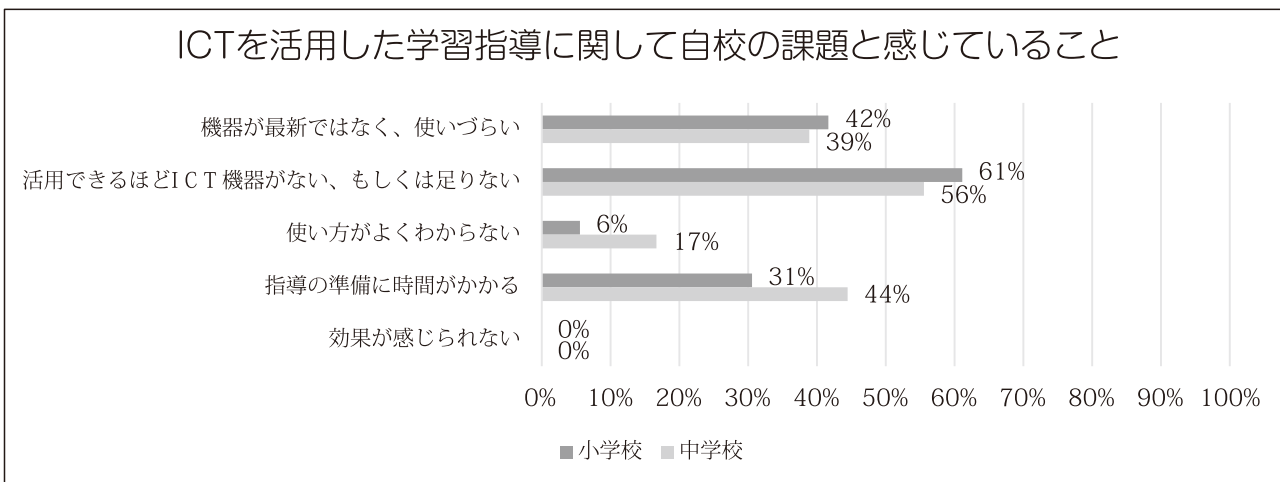
小学校	中学校
<p>(国語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○漢字の書き順の提示。 ○国語のグループによる課題別学習の発表で、映像を録画し、後日映像を見比べさせることで自分たちの発表の長所と課題について把握しやすい。 	<p>(国語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文法の学習など、教科書本文を利用するとき、実物投影機で映し出しながら説明すると、黒板に本文を書き出す必要がない。書写の指導では、教科書本文と連動した動画を視聴することにより、イメージが膨らみ理解が深まった。 ○生徒の記入した文章を、実物投影機を通してテレビ画面に映し出し、説明を行う。
<p>(社会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○NHK for school を視聴させ、指導内容を定着させている。 ○3年社会「わたしたちのまちと市」 インターネット上の地図をテレビに映し、拡大したり縮小したりすることで、自分たちの住む町の地形や、住宅街、農地など周辺の様子を視覚的に捉えさせるツールとして使用した。 	<p>(社会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○インターネットにつながるPCや実物投影機をプロジェクタに接続し、スクリーンに映し出す。地理では人口統計やグーグルアース、公民では株価変動など、現在進行形の変化や情報を生徒に提示することができる。また、実物投影機を使用することで、資料(グラフや分布図、写真など)を大きく映し出すことができ、生徒全員がプロジェクタに映し出された映像を通して、同じ視点で読み取り等を行うことができる。

	<p>○世界の諸地域（1、2年生）</p> <p>地域おこし協力隊である町の職員が、タイへ視察に行った際に本校の教室と現地をiPadの「スカイプ」を活用し、タイ現地とリアルタイムでやりとりし、現地の人とも交流しながら風土、文化、宗教などを学習し理解を深めた。</p> <p>○ワード等で作成した問題を、パソコンを使用して取り組ませる。</p>
<p>（算数）</p> <p>○6年算数「対称な図形」</p> <p>いろいろな図形を教科書のQRコードから読み取り、線対称、点対称か考え、視覚的にわかりやすく意欲的に取り組んだ。対称の図形のかき方を動画で確かめ、理解することができた。</p> <p>○3年算数「表とグラフ」</p> <p>パソコンとプロジェクタとマグネットスクリーンを用いて、グラフのかき方の指導で活用した。様々なグラフを大きく映し出せた。児童も、様々なグラフのかき方を身に付けることができた。</p> <p>○算数のデジタル教科書の指導では、グラフのかき方の例や、垂直などの図形の学習において、視覚的な効果を高めることができています。</p>	<p>（数学）</p> <p>○1年数学「おうぎ形」</p> <p>東京書籍付属のDVD内にあるソフト「Dマークコンテンツ」を利用し、面積＝弧の長さ×半径÷2で求められることを、視覚的に理解を深める。</p> <p>○証明問題の模範解答や生徒の解答を、実物投影機を通してテレビ画面に映し出し、説明を行う。教科書等に付属しているDVDをテレビ画面に映し出し、説明を行う。</p>
<p>（理科）</p> <p>○関連した写真や動画の提示。動画視聴による視覚に訴える学習。</p> <p>○6年「物の燃え方と空気」</p> <p>コロナ禍により、グループでの実験ができない中、担任が実験動画を撮影・編集し、字幕を添えて分かりやすくしたものを視聴させた。</p> <p>○NHK for school を視聴させ、指導内容を定着させている。</p>	<p>（理科）</p> <p>○実験で演示実験を映像に収め、授業で活用。映像を止めたり、再生したりするなど、見落としがちな実験過程の反応の様子を振り返り、定着に効果を発揮していた。</p> <p>○個別実験で作成した結晶を画面に表示し、その様子を共有した。</p>
<p>（音楽）</p> <p>○「合唱」</p> <p>タブレットPCに曲をボイスレコーダーで録音して、個別で練習をさせ、最後に全員で合唱する。</p>	<p>（音楽）</p>
<p>（図工）</p> <p>○手元を見せて全体指導</p>	<p>（美術）</p>

<p>(家庭)</p> <p>○5年家庭科「ソーイング」</p> <p>教科書のQRコードを読み取り、ソーイングの基本（玉結び、玉どめ、様々な縫い方など）について、動画で見せることにより、イメージをもち、スムーズに活動に入ることができた。</p> <p>○実物投影機で、玉止め・玉結びを指導。</p>	<p>(技術・家庭)</p>
<p>(体育)</p> <p>○「ダンス」</p> <p>動画を投影し、視聴しながらの練習</p> <p>○「マット運動」</p> <p>技の手本の動画を視聴しながら、ポイントを全員で確認する。</p> <p>○「マット運動」「跳び箱」など</p> <p>タブレットの動画ソフトの20秒後リプレイ機能を活用し、自分の技を行った後、タブレットで確認し、自己のフォームをとらえることができるようにした。20秒後に自動再生のため、録画して再生という操作をする必要なく、技を行った児童が次々タブレットのところに行きスムーズに確認することができていた。友達と自分のフォームを視覚的に比較することができ、より上手に技を行いたいという意識が高まった。それに伴い、練習に対する高い意欲が見られた。</p> <p>○1年体育「ラジオ体操」</p> <p>ラジオ体操の手本の動画をプロジェクタでステージ上のスクリーンに映し、児童に見せることで必要な一つ一つの動きを確実にできるよう指導を行った。</p>	<p>(保健体育)</p> <p>○「柔道」</p> <p>大腰や体落などの投げ技を撮影・再生することで、生徒自身が技のかけ方を客観的に捉え、技術の習得に役立った。</p> <p>○「ハードル」</p> <p>タブレットのカメラで撮影した動画により自己のフォームを客観的に捉えることができるようにした。自分のフォームを友達と比較しながら客観的に分析したことで、より上手に走り越えたい意識が高まり、練習に高い意欲が見られた。</p>
<p>(外国語活動・外国語)</p> <p>○チャッツ等における指導時に活用。また、ALTがデジタルカメラの画像を映して指導に生かしている。</p> <p>○デジタル教科書を使用している「発音練習」や「英語の歌」の取組では、児童の外国語の対する興味を高め、楽しそうに活動させることができた。</p>	<p>(外国語)</p> <p>○実物投影機を通してテレビ画面に本文を映し出し、指導を行う。</p> <p>○ALTとの英会話のやりとりをビデオカメラで撮影し、テレビで映し出し指導を行う。</p>
<p>(道徳科)</p>	<p>(道徳科)</p> <p>○タブレットを使用し、個の意見をグループにまとめる活用。時短効果の他にコロナ対策として、他の意見を、タブレットを介して共有し、3密を避けながら議論を深めることにつながった。</p> <p>○振り返りに、生徒一人一人に配付したタブレットを使用。</p>

<p>(総合的な学習の時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○タブレットPCで、調べ学習のまとめプレゼンテーションを作成させ、発表に使う。 ○プログラミング、宿泊学習修学旅行等の事前調べ学習、グーグルマップの活用。 	<p>(総合的な学習の時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ふるさと教育において、地域特産品の魅力を動画にまとめ、SNSで発信して販売促進に取り組みはじめたところである。町教委社会教育グループ、町内の事業者、ICTの専門家等と協働し、動画編集用のノートパソコンやビデオカメラを5班分(5セット)については、町の予算で購入した。専門家が動画の撮影や編集スキルの指導を行ったことにより、生徒の意欲が高まり、知識や技能が身に付いた。本取組の評価や検証を行うのはこれからになるが、情報活用能力と社会参画力を同時に高める事例として、一定程度の成果が出るものと予測している。 ○進路学習のときに、パワーポイントで作成した資料を使い説明する。
<p>(特別活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○朝の会にて、本の読み聞かせを行う際、実物投影機で映し、挿絵を見せている。 ○タブレットPCに児童が委員会からの連絡を録画しておいて、昼休みに放映する。 	<p>(特別活動)</p>
<p>(全般)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ノート指導においてノートを拡大提示しマス目を意識させる。 ○自分の考えや解き方、心情などをノートに表し、実物投影機を用いて発表、表現する。そのことによって思考力、表現力が高まった。 ○本校は、今年度、道教委指定事業「オンライン学習導入モデル事業」の指定校となり、6年生を対象とした取組を行っている。事前にネット環境調査を行い、必要に応じて端末やルーターなどの貸与を行い、環境を整えた。事業の趣旨はオンラインを活用した家庭学習等の支援である。現在はZoom体験を2度行い、教員・児童ともに操作方法に慣れる段階だが、今後は他の学年も含めて、国語や算数を中心に宿題や学習内容のつまずきなどへの支援・対応へとつなげていきたい。また、不登校や様々な理由で出席できない児童に対する学習や、臨時休校時の対応など、多様な活用方法を検討していきたい。 ○全学年にデジタル教科書を整備し、黒板とテレビを併用することで、授業の効率化を図っている。特に、写真やグラフ、図形など、教師の教材準備等の時間が短縮されている。また、児童のノートや交流の様子を教師用タブレットで記録し、全体交流等で活用することで、児童の多様な意見や考えを広げ、学びを深めることができている。 ○自学できるソフトをタブレットに入れ自分のペースで学習ができる。 ○子どもが自分たちでまとめた内容を発表するときにタブレットの画面をスクリーンに表示して発表することで様々な工夫を考えることができるようになった。 ○自作教材(一問一答形式等)で単元終了ごとに既習事項の確認を各自パソコンで行っている。 ○生徒がアンケートや記述をタブレットに入力すると、集計や記述のとりまとめを瞬時に行えるため、すぐに活用することができる。 	

(4) ICT を活用した学習指導に関して自校の課題と感じていることについて教えてください。



※その他（記述）

〈小学校〉

- どの職員でも、簡単に共通して使える機器、使用法が確立していない。
- ソフトの充実やデジタル教科書を活用したい。
- Wi-Fi 等どこでも使える環境が整っていないため、使いづらい。
- リモート授業への備え（ズームの活用、授業スタイルの在り方）。
- ICT を積極的に活用したい教員は多いものの、現在は学校にタブレット端末等の機器がなく、個人所有のタブレットやスマートフォンの使用に頼らざるを得ない状況がある。
- PC 教室では、児童一人一人が利用できる学習者用コンピュータは整備し活用されているが、児童一人一人が、全教科で毎時間使えるように児童用タブレットが整備されると ICT を活用した学習の幅がより広がると考える。
- 現状、学習指導上の課題は特にありません。

〈中学校〉

- 1 人 1 台の環境をどう効果的に活用していくかを自校の課題として研修および取組をすすめていきたいと考えています。
- 1 人 1 台端末の導入時期が見通せず、導入されても生徒・教師ともに操作に慣れるまでには時間を要する。
- ネット環境が悪く、PC を一斉に使うと回線が固まり使うことができなくなる。（今年度、ネット回線工事で修繕される見込み）。インカメラ搭載の PC がなく、またタブレットも少ない。今年度 GIGA スクール構想で改善される予定。
- 年齢が高い教員が、ICT 機器の使い方がわからなかったり、ソフトを用いた資料の作成ができなかったりする。

○小学校・中学校共に「活用できるほど ICT 機器がない、もしくは足りない」が最も高い割合となりました。

○小学校・中学校共に「使い方がよくわからない」が最も低い割合となりました。

○小学校・中学校共に「効果が感じられない」は0%でした。

column

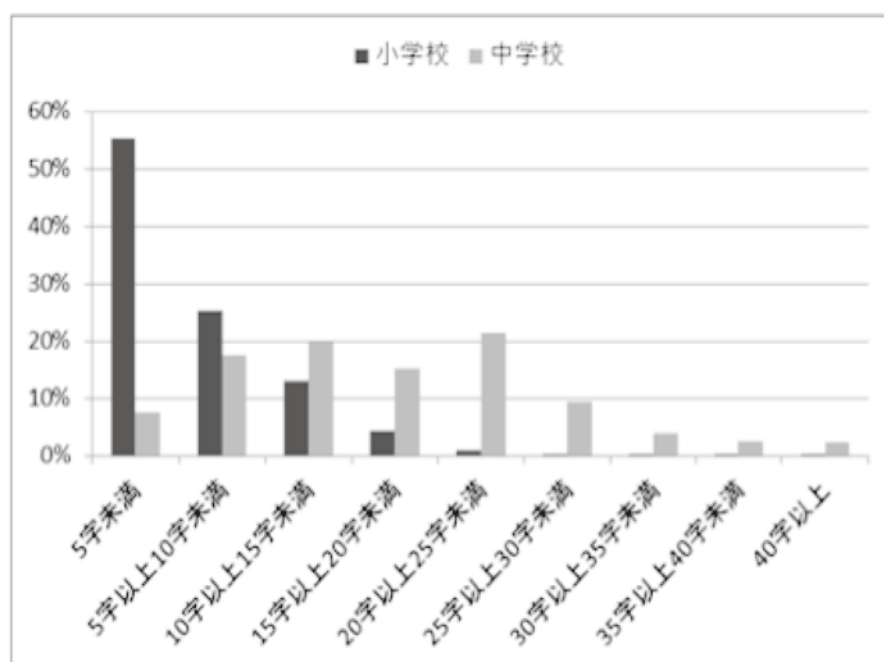
1

1 分間当たりの文字入力数

文部科学省が2013年に実施した調査によると、1分間当たりの文字入力数の平均は小学生が5.4文字、中学生が17.4文字でした。

今後、タッチパネルでの文字入力の普及などによりキーボードを打つ必要性は今より減ってくるのかもしれませんが、ICTを活用するという視点であれば、計画的に身に付けておきたい力の一つです。

図表 4-5-2b 1分間当たりの文字入力数
小：平均5.9文字 中：平均17.4文字



「情報活用能力調査結果第4章」文部科学省

column

2

クラウドって何？

コンピュータの利用形態の一つです。インターネットなどのネットワークに接続されたコンピュータ（サーバー）が提供するサービスを、利用者はネットワーク経由で手元のパソコンやスマートフォンで使います。従来のコンピュータの利用形態では、利用者は手元のパソコンの中にあるソフトウェアやデータを利用していましたが、しかしクラウドサービスでは、ネットワークを経由して、雲（クラウド）の中にあるソフトウェアやデータをサービスで使います。使用するメリットとしては、①システム構築の時間短縮、②メンテナンス不要、などがあり、また、デメリットとしては、①カスタマイズが難しい、②サーバーの安定性やセキュリティに関するリスクなどがあります。

北海道教育委員会の「ICT 活用ポータルサイト」は、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等の先生方が ICT を活用した教育を実践しようとする際に参考になるように、多くの関連情報を集めたウェブページです。



QRコード

「ICT活用ポータルサイト」 教育庁 ICT 教育推進局 ICT 教育推進課

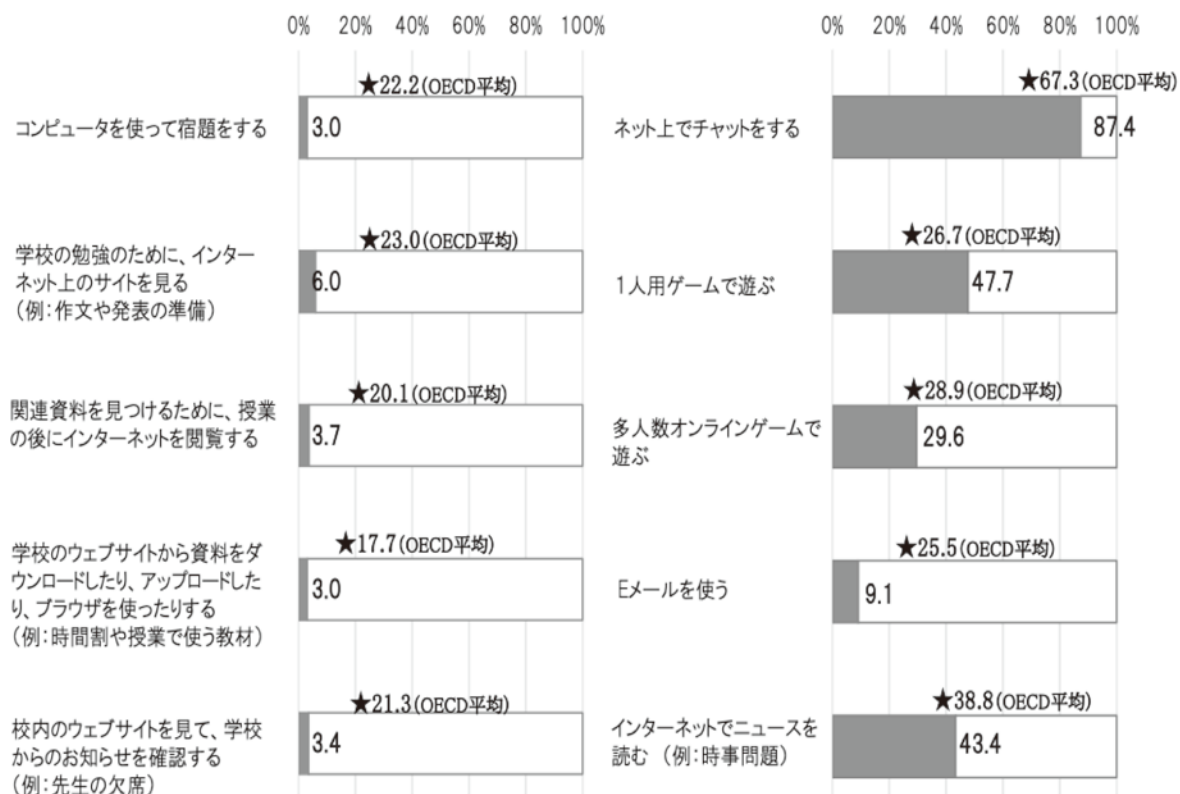
ICT活用ミニハンドブック

「ICT活用ミニハンドブック」について

- ・このミニハンドブックの内容は、アプリケーション等を使用する際に最低限必要となる機能に絞って説明するものになっています。（すぐに使ってみたい時に役立つように）
- ・これ以上の機能等について知りたい場合は、書籍やウェブ上の情報を参照してください。
- ・授業におけるICTの活用に関する情報は、ICT活用ポータルサイト内の授業モデル等を参照してください。
- ・アプリケーションのバージョンアップ等に伴い、メニューや機能が変更になる場合があることをご了承ください。

ICT活用ミニハンドブック(PDF)	
1	スマートフォンをウェブカメラとして利用 編
2	Googleフォームでアンケート 編
3	Google Meetでウェブ会議 編
4	Google Classroomでクラス準備 編
5	Google Jamboardで思考共有 編
6	Zoomでウェブ会議準備 編
7	Zoomで授業研修準備 編
8	Webexで会議準備 編
9	スマートフォンでG Suite準備 編
10	Google ColaboratoryでPython 編
11	情報モラル教育 編
	随時追加する予定です

● 学校外での平日のデジタル機器の利用状況 (色帯は日本の、★はOECD平均の「毎日」「ほぼ毎日」の合計)



(PISA 調査 2018)

PISA 調査は、そのタイトルの通り「生きるための知識と技能」を問うものであり、一般的学力を測るようなものではありません。学校現場には調査の結果の意義が正確に伝わっていないのではないかとたいへん危惧されています。今回、調査問題自体はその7割がPC使用型調査のために開発された新規のものとなり、前回までの「読解力」の調査からは大きく変化しています。

今回のPISA調査で明らかになった最大の課題は、デジタルデバイスについて、家庭での子どもたちの自主的な使用が先行し、OECD諸国に比較してゲーム遊びやチャットなど「遊び」に多く使われている反面、「宿題をする」「学校の勉強のためにインターネット上のサイトを見る」「関連資料を見つけるために授業後にインターネットを閲覧する」等、学校や家庭での学習にデジタルデバイスを使用している子どもの割合が非常に少ないということです。

つまりデジタルデバイスをどのように使うべきかということが、家庭においても学校においてもあまり教えられていない状況にあり、子どもたちが「自主的に」「遊び」に使っている実態が先行してしまっているということが言えます。

GIGA とは、Global and Innovation Gateway for All の略です。

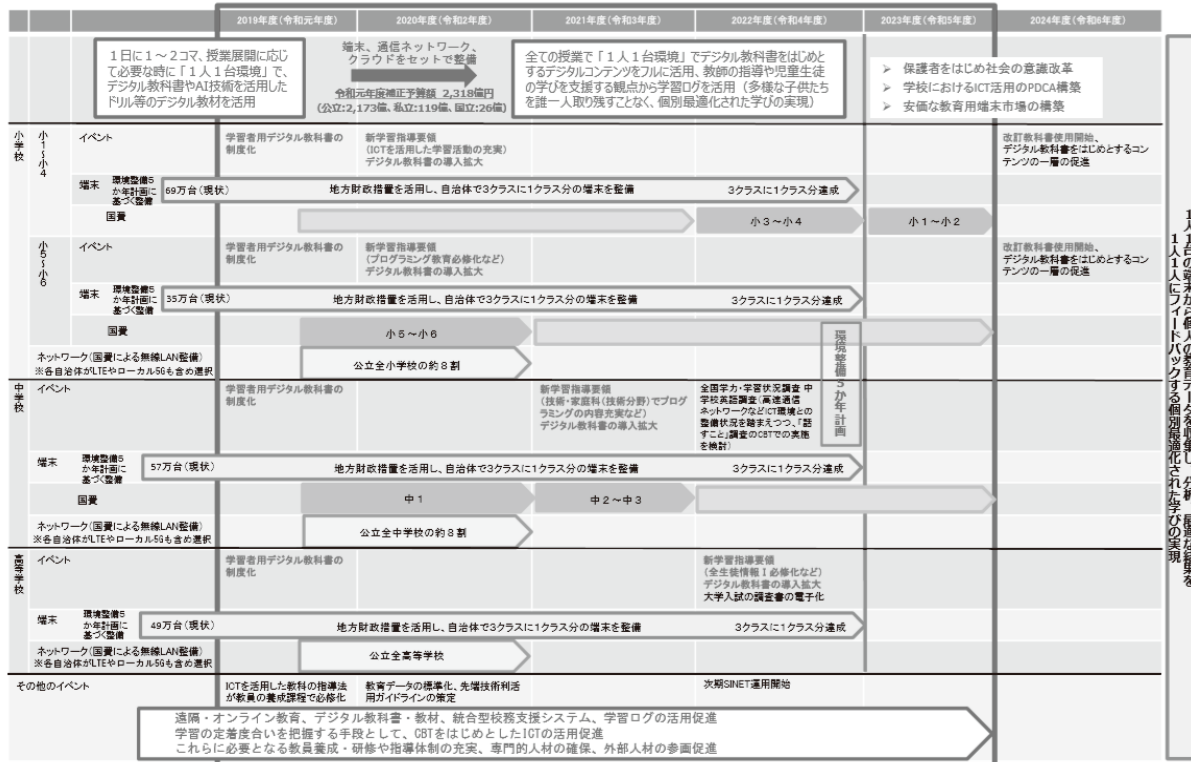
GIGA スクールはそもそも教育の質を高め、世界的にみて遅れている日本の学校の ICT 環境を改善することがねらいです。GIGA スクール構想の実現に向けた最初の関門とされた端末の整備は、今年 3 月末までに多くの自治体で達成される見通しとなりました。

しかしながら、実際に小中学校の授業で 1 人 1 台端末が文房具のように使われていくためには、ネットワークの整備や家庭間のデジタル格差への対応、個人情報保護などセキュリティに対する考え方の整理、デジタル機器に対する教員の習熟と授業での活用法など、様々な課題が残されています。

GIGAスクール構想の実現ロードマップ

～令和時代のスタンダードとしての学校 ICT 環境を整備し、全ての子ども 1 人 1 人に最もふさわしい教育を～

※Global and Innovation Gateway for All

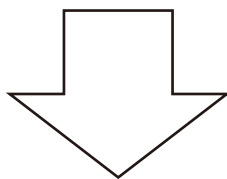


「GIGA スクール構想実現のロードマップ」文部科学省



① 「ICT を効果的に活用するための校内体制」に関すること

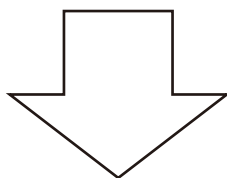
- (1) ICT 活用に関する教職員の理解は概ねあり、多くの学校がその必要性を理解している。
- (2) ICT 支援員など、ICT に長けた人材の不足を多くの学校が課題として感じている。今後も研修を重ねて ICT 活用に関する理解を深め、実践につながる研修をしていく必要性を強く感じている。
- (3) 自校の課題が「特にない」と回答した学校が 22% あり、その中には先進的に実践している学校もある。そのような先進事例に学んだり、情報交流したりすることが大切になってくる。



「ICT 教育の充実に向けた新しい校内体制づくり」や「校内研修計画等の工夫・改善」を通して、内外人材の活用や教職員の共通理解を更に進め、組織的に取り組むことが必要である。

② 「ICT を効果的に活用するために必要な環境整備」に関すること

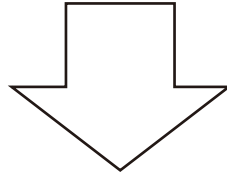
- (1) 出力機器・入力機器についての環境整備はまだまだ整っていないとは言えない。今後、計画的な整備が必要である。
- (2) 操作機器についての環境整備は、「足りていない」の割合が非常に高かったが、GIGAスクール構想により、今年度末までに、殆どの学校で整備されることになっている。今後、それをどう活用していくかの導入後研修が必要になってくる。
- (3) 多くの学校が、Wi-Fi 環境についての整備が急務と考えている。



「機器の活用状況の把握」や「ICT 教育に必要な設備・機器等の検討」を通して、必要な環境に向けた整備・機器等の設置の充実に繋がることにより、よりよい学習環境の充実に繋がる。

③ 「ICT を効果的に活用した学習活動の充実」に関すること

- (1) 「子どもが授業に集中する」「学習の理解が深まる」「学習指導がしやすい」などといった利点を多くの学校が感じている。
- (2) 今後、1人1台端末の活用が進むことにより、多様な意見を引き出す実践が増えてくるだろう。



「ICT機器を活用した学習指導法の工夫・改善」を通して、効果的な実践等の導入を行うことにより、学習活動の充実に繋がる。

「組織的な運営」「学習環境の整備」
「学習活動の充実」を通して、情報活用能力の育成に向けた授業改善を行うことにより、教師の指導力向上へと繋がり、その結果、児童生徒の情報活用能力の育成を図ることができる。

》 資 料

～今後各校において取組を進めていくうえで、
参考となる資料を紹介します～

ICT を活用した教師の指導力向上のために必要なこと

- 1人1台端末が整備される前に「細かな課題」を想定し、対策を立てておくこと。
- クラウドの学習支援ツールが使えるよう、「機器設定」「各種機能の把握」をすること。
- 機能に応じた具体的な学習活動とその想定をすること。
- 端末の使用主体は児童生徒であることから、教員による活用研修と並行した、児童生徒の主体的な活用を促す研修。

学校においては、ICT 活用にあまり積極的でない教員にも配慮した校内研修の充実を図ったり、地域・保護者へ GIGA スクール構想の概要や目的を周知したりすることが必要です。

～クラウドの機能～

1 学習成果の保存機能

- 毎時間の授業映像の保存
- 作業途中の資料の保存
- 評価情報の蓄積など

2 課題や資料の提示・提出機能

- 学習課題等を視覚的に分かりやすく提示
- 学習活動を焦点化する実演等の映像の提示
- 小テストやアンケートの実施など

3 テレビ電話とチャット機能

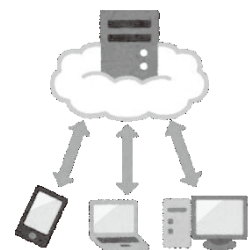
- 密にならない、移動しないでグループ協議ができる
- 少数意見を把握できる
- 専門家や機関へのインタビュー
- 複線化した学習、校外学習

4 共同編集機能

- ペア、グループで作業と協議を同時にできる
- 教師が学習過程を把握し、添削や即時コメントができる

5 カメラ、録音、録画機能

- 観察スケッチは必要なしに
- 文字の音声入力
- 外国語の発音チェック、翻訳
- VR 映像等の作成



情報活用能力

情報活用能力とは、世の中の様々な事象を情報とその結びつきとして捉えて把握し、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力のことであり、これまで「情報活用の実践力」「情報の科学的な理解」「情報社会に参画する態度」の3観点と8要素に整理されてきています。

新学習指導要領の総則では小・中ともに次のように書かれ、「情報活用能力」は各教科等の学びを支える基盤であり、言語能力と同様に学習の基盤となる資質・能力と位置付けています。

各学校においては、児童（生徒）の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。小・中：第1章 第2の2の（1）

そして、情報活用能力の育成を図るため、各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ることに配慮することが明記されています。

情報活用能力と学び

コンピュータ等の活用

第3 教育課程の実施と学習評価

1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

(3) コンピュータ等や教材・教具の活用

（一部抜粋）情報活用能力は「学習の基盤となる資質・能力」であり、確実に身に付けさせる必要があるとともに、身に付けた情報活用能力を発揮することにより、各教科等における主体的・対話的で深い学びへとつながっていくことが期待されるものである。

（一部抜粋）各教科等においてこれらを適切に活用した学習活動の充実を図ることとしている。

（中学校学習指導要領解説 総則編）

情報活用能力調査の結果

文部科学省では、児童生徒の情報活用能力について、把握、分析するとともに、指導の改善、充実に資するため、小・中学生を対象にコンピュータを用いた情報活用能力調査を平成25年10月から平成26年1月にかけて実施しました。その結果、以下のような傾向が見られることが分かりました。

調査結果の主なポイント

<児童生徒の情報活用能力に関する傾向>

- 1 小学生について、整理された情報を読み取ることはできるが、複数のウェブページから目的に応じて、特定の情報を見つけ出し、関連付けることに課題がある。また、情報を整理し、解釈することや受け手の状況に応じて情報発信することに課題がある。
- 2 中学生について、整理された情報を読み取ることはできるが、複数のウェブページから目的に応じて、特定の情報を見つけ出し、関連付けることに課題がある。また、一覧表示された情報を整理・解釈することはできるが、複数ウェブページの情報を整理・解釈することや、受け手の状況に応じて情報発信することに課題がある。

「情報活用能力調査の結果について」 文部科学省

そして、調査結果からみる指導のポイントとして、教員のICT活用指導力の向上に役立つ研修資料等が以下のHPには多く掲載されています。

「教員のICT活用指導力の向上」 文部科学省



QRコード

収集した情報を基に、ICTを活用して話し合う

【タブレットを活用して】



・インタビューの結果を、繰り返し再生し、大切な内容を確認することができる。
・撮影した映像や動画を繰り返し確認することができる



画像や映像を繰り返し再生して話し合うことで、情報が吟味されるので、調べたことを基に深く考えることができる

・自分たちで収集した画像や映像を基に、自分たちが調べてわかったことをまとめたり、わかりやすく伝えたりすることができる



多様な表現方法や発信方法につながっていく

ICTを活用することで、学習活動の幅が広がる

- 繰り返し再生できる
- 映像や音声でわかりやすく伝えることができる
- 情報交換がやりやすく、考えを広めたり深めたりできる

8

洞爺湖町立洞爺湖温泉小学校

今年度、多くの学校が公開研究会を延期や中止をする中、研究授業の録画 DVD を参加希望者へ事前に配付し、研究協議を、Zoom を使ったリモート型で行うという取組を行いました。来年度もコロナの影響が少なからず続くことが予想されます。リモートでの公開研究会、研究協議の実践事例は、これからの自校の研究会の開催の在り方に多くの示唆を与えてくれるものです。

リモートでの公開研究会、研究協議を行った結果、以下のことが利点として考えられました。

- ①時間（移動・準備）
- ②補欠不要（時間・負担感・学習進度）
- ③旅費の節約（設備投資・効果の最大化）
- ④安全確保（交通・感染）

また、課題としては以下のことが考えられました。

- ①授業の録画 DVD は編集したものであったため、授業の全体像を把握することができなかった。よって、授業の同時配信や授業全体の動画データ配付など、授業の全体像を把握できる工夫が必要。
- ②リモートでの協議の準備、練習を接続練習会等の機会で行うことはできていたが、さらなる積み重ねを進め、質の向上を目指していく必要がある。

※リモートでの公開研究会へ向けた計画等の文書を P24～P27まで掲載しています。



令和2年度 洞爺湖町立洞爺湖温泉小学校 公開研究会について

1 主な業務と分担

	庶務	会計	接待	授業	研究発表	動画編集 Zoom	記録
氏名							
仕事内容	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画作成 ・各仕事調整及び総括 ・大会1次案内、2次案内作成 ・開催要項作成 ・参加者名簿作成 ・配布物の集約 ・必要物品集約 ・依頼・礼状関係 	<ul style="list-style-type: none"> ・会計業務一切 ・配布物の送付 	<ul style="list-style-type: none"> ・来校者用飲み物手配 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案作成 ・指導案検討 ・研究授業 ・研究協議 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究紹介の作成 ・研究協議に参加していただくための具体的な方法作成 ・研究協議運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画撮影 ・動画編集 ・研究協議 ・Zoomの練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究協議 ・助言者講評 ・アンケート作成

2 大会当日の日程及び内容

(1) 日時

令和2年11月6日(金) 13:50～15:10

(2) 日程

13:50	14:00	14:15	14:55	15:10
ログイン 受付	開会式	リモート会議型研究協議 40分 ・通常学級分科会 ・特別支援学級分科会		閉会式

(3) 授業公開

学級	教科	単元名	授業者
3、4年	算数	3年「あまりのあるわり算」 4年「式と計算の順じょ」	
5年ふれあい学級	算数	「割合」(4年上巻)	

3 大会までの計画

		8月	9月	10月	11月
1	土	夏季休業開始 ～8月16日 16日間	火 校務部会(11月)	木 開校記念日	日 ●北海道教育の日
2	日		水 定時退勤日校区巡視①	金 ハーモニータイム 学級経営交流会② 定時退勤日校区巡視①	月 定時退勤日校区巡視①
3	月		木 B日課 ALT来校	土	火 文化の日
4	火		金 参観日② ハーモニータイム 胆振防犯教育デー	日	水
5	水	定時退勤日校区巡視①	土	月 全校朝会⑨ 後期清掃開始	木 B日課 ALT来校 ハーモニータイム (Jアラート訓練)
6	木		日	火 研修会議⑩	金 町教研兼へき複公開研究会
7	金		月 全校朝会⑤	水	土
8	土		火 研修会議⑨	木 B日課 ALT来校	日
9	日		水	金 児童委員会	月 全校朝会⑦(認証式)
10	月	山の日	木 B日課 ALT来校	土	火
11	火		金 児童委員会⑦反省 ハーモニータイム	日	水
12	水		土	月	木 B日課 ALT来校
13	木	学校閉庁日	日	火 校務部会(11月)	金 ハーモニータイム 校務部会(12月)
14	金	学校閉庁日	月 授業動画収録	水 二計測・視力検査	土
15	土		火 職員会議	木 B日課 ALT来校 二計測・視力検査	日 ●道民家庭の日
16	日	●道民の日	水	金 ハーモニータイム	月
17	月	5時間 始業式 交通安全指導②	木 B日課 ALT来校	土	火 児童委員会④ 定時退勤日校区巡視②
18	火	職員会議 安全点検日	金 ハーモニータイム 研修⑩	日 ●道民家庭の日	水 B日課 職員会議
19	水		土	月 避難訓練週間	木 B日課 ALT来校
20	木	B日課 ALT来校	日 ●道民家庭の日	火 職員会議 定時退勤日校区巡視②	金 ハーモニータイム
21	金	ハーモニータイム 研修会議⑦ 定時退勤日校区巡視②	月 敬老の日	水 安全点検日	土
22	土		火 秋分の日	木 B日課 ALT来校 6年修学旅行?	日
23	日		水 定時退勤日校区巡視①	金 6年修学旅行?	月 勤労感謝の日
24	月		木 B日課 ALT来校	土	火 研修会議⑮
25	火	児童委員会⑥	金 ハーモニータイム 児童委員会⑥	日	水
26	水	互助会レク	土	月	木 B日課 ALT来校
27	木	B日課 ALT来校	日	火 研修会議⑬、大会リハーサル	金 ハーモニータイム 児童委員会⑤
28	金	ハーモニータイム 研修会議⑧	月	水	土
29	土		火 研修会議⑪	木 B日課 ALT来校 特支合同学習バス遠足	日
30	日		水 月末 動画編集作業	金 児童委員会③ ハーモニータイム 月末統計	月 月末統計
31	月	月末統計		土	

4 リモート会議型研究協議に関わって

(1) 役割分担

	司会・運営	授業者	記録	Zoom
通常学級ブロック				
特別支援ブロック				

(2) 協議の柱

通常学級『課題に主体的に取り組み、学び合う場面設定の工夫』

特別支援『進んで考え「わかった!」と楽しめる授業をめざす方法』

5 配布物に関わって

(1) 指導演

- ・作成…
- ・8/21（ブロック研）検討→8/28（ブロック研）検討→9/8（全体研）検討→研修部で印刷→配布
- ・印刷部数 町教研会員分 70 部、へき複会員分 89 部、合計 159 部

(2) 開催要項

- ・作成…
- ・印刷…

(3) 研究の紹介（紀要にあたるもの）

- ・本校の研究全体に関わる部分…
- ・通常学級ブロックの重点に関わる部分…
- ・特別支援ブロックに関わる部分…

(4) 研究協議に参加していただくための具体的な方法

- ・作成…
- ・内容…Zoom に関すること、各校で準備していただくもの（パソコンなど）、研究協議の進め方。

(5) アンケート

- ・作成、印刷…庶務
- ・各校まとめてもらい、メールで本校に届くようにする。

(6) 授業動画の CD-R

- ・作成…
- ・町教研3校（温泉小、とうや小を除く。）へき複13校、胆振教育局、研究所、教育委員会、合計19枚。
- ・編集ソフト…filmora9、PowerPoint
- ・通常学級、特別支援を合わせて1枚にする。
- ・構成…①本校の研究について ②通常学級ブロックの研究の重点と3、4年学級授業 ③特別支援学級 ブロックの研究の重点と5年ふれあい学級の授業の3部構成としたい。
- ・②③の内容イメージ
ブロックの重点の説明→授業の中で重点についてどのように取り入れたか、説明（スライド）と授業動画の抜粋→成果と課題

6 動画撮影に関わって

(1) 動画 CD-R の作成までの計画

- ・8月下旬（8/24～8/28）動画集録練習（カメラの位置確認、児童のカメラへの慣れ）
- 9月上旬（8/31～9/4）動画集録練習（カメラの位置確認、児童のカメラへの慣れ）
- 授業動画集録（9/15～9/18）**
- 動画編集作業（9/23～9/28）
- 9/29 研修⑪各ブロックの研究の重点と動画を合わせて視聴する（編集途中のもの）。
- 動画編集作業（9/30～10/5）
- 10/6 研修会議⑫動画視聴（完成したもの）
- 10/7～10/16 動画 CD-R 作成、各校へ送付。

(2) 撮影について

- ・撮影…
- 通常学級…定点カメラ2台（3年児童の様子1台、4年児童様子1台）、ハンディカメラ（児童が自力解決している様子やノートを接写）
- 特別支援学級…定点カメラ1台（5年児童の様子1台）、ハンディカメラ（児童が自力解決している様子やノートを接写）
- ・撮影の練習を行う。
期日は担任と相談で、教科は問わない。1単位時間全部でなくてもよい。

登別市立鷺別中学校

長い休校が続いた年度当初を経て、生徒たちの学びの機会を保障するため、ICTに長けた教員を中心に市の教育委員会と連携をとりながら、オンライン学習の導入へ向けた取組を進めてきました。ネット環境に関するアンケートを実施したり、Google Classroomについてオンライン学習の検討会をしたり、いろいろ手探りで取り組み、「トライ&エラー」で情報共有することを目指しています。まずはじめに、生徒保護者向けに、アカウントに関する文書を配付しました。詳しく知りたい場合は、鷺別中学校にお問い合わせください。

見本

来週の総合（オンライン学習）の時間に配布します。
1年生…8/25(火) 2年生…8/26(水) 3年生…8/24(月)

令和2年8月〇〇日

保護者・生徒の皆様

登別市立鷺別中学校
校長 鈴木 恭 朗

G Suite for Education(Google for Education)の利用開始について

休校中等の生徒の学習支援のため、また、今後ICTを活用した学びを進めていくため、登別市立鷺別中学校では、G Suite for Education (Google for Education) を利用します。

つきましては、本校でお子様のG Suite for Education アカウントを作成し、活用することにつきましてご同意いただきたくお願い申し上げます。G Suite for Education は、文書作成、課題管理、授業配信など、Google社が提供する教育向け生産性ツールのセットで、世界中の何千万人もの生徒と教員に利用されています。本校の生徒は、課題の取り組み、教員との連絡、クラスメートとの共同作業などで各自のG Suite アカウントを使用します。

この文書の後半で、プライバシーとセキュリティに関する質問と回答を記載していますので、ご確認ください。

【重要】 ※中学校卒業時まで、大切に保管して下さい。

G Suite for Education アカウント

学年/組/番：3年4組1番

氏 名：○○ ○○

1枚目は1人1人の名前が記載されています。
生徒の名前を確認して配布して下さい。
2枚目以降は全員同じです。

ログイン用メールアドレス：

nobo○○-△△△@naboribetsu.ed.jp

パスワード：abcd1234

メールアドレスとパスワードが割り当てられています。

※メールアドレスおよびパスワードは、他人に教えないで下さい。

G Suite for Education の利用にご不明点などがある場合は、
鷺別中学校（0143-86-7950）までご連絡ください。

ICTに苦手意識があったり、不安があったりすると思いますが、ICTを活用することは校務の効率化にも繋がります。できることから始めている実践を紹介します。

使い方を知り、校務に役立てる

登別市立緑陽中学校 高橋 佳織

インターネットで様々な申込をする際、Google フォームからの申込を1年ほど前からよくするようになり興味をもっていた。今年度の休校中に、自らGoogle フォームを作成してみた。まずやってみることが大事だと考えた。他のGoogle フォームを見本にしたり、わからないところはインターネットで検索したりして作成した。また、作成したことのある知り合いの先生から、まとまっていて便利なサイトを教えてもらい、それを見ながら作成した。完成したと思ったら、自分でフォームの動作確認をし、不足の部分に気づき、直していった。最初は時間がかかったが、作成してみると、学校の仕事にも使えると感じた。

勤務校では、定期テストの前に学習会を行っている。昨年までは参加希望を集約するプリントを配付し、記入して学校に提出してもらっていた。それを教師側で集計していた。しかし、Google フォームを使えば簡単にできる。今年度初の学習会は11月中旬だった。2学年の学習会の申込を、試行の意味も含めてGoogle フォームを使って行った。

<準備>

Google のアカウントを取得し、フォームを作成。

インターネット環境のない家庭からは、従来どおりプリントでの申し込みも可能とした。

生徒側のメールアドレスは必要無いので、入力しないように設定。必要最低限のことだけ選択すればよいようにした。

エクセルのシートでデータを並べ変えるのに、学級や出席番号があると便利になるので、設定した。

<周知>

2学年の保護者には、学習会の開催を知らせるプリントで、フォームから入力する形で試行することを書き、伝えた。

また、申し込みやすくなるように申込フォームのURLとともに、QRコードをつけた。

さらに、締め切りの3日前に、学年のお知らせメールでもURLを連絡。

<結果>

申込をエクセルシートで処理したので、名簿作成の時間が昨年までに比べ、5分の1ほどですんだ。

単純な事務作業や申込は、このようなシステムを使うことで、かかる時間が減り、授業準備や生徒対応などに時間を割くことができる。また、教師側に余裕も生まれる。今後、使用できるものには、どんどん取り入れていくことができたらよいと思う。

緑陽中学校 2 学年期末テスト学習会

11月16日（月）17日（火）、放課後30分行う学習会の申込です。
 学習するものは自分で準備します。
 参加する場合は、11月4日（水）までにお申込みください。
 参加しない場合は、このフォームに入力する必要ありません。

*必須

生徒名*
フルネームでご入力ください。
 回答を入力

所属学級
 2年A組
 2年B組
 2年C組
 2年D組

出席番号*
学級ごとの出席番号を書いてください。
 回答を入力

11月16日（月）
参加する場合は、教科にチェックをしてください。参加しない場合は、チェック必要ありません。
 数学
 英語

11月17日（火）
参加する場合は、教科にチェックをしてください。参加しない場合は、チェック必要ありません。
 理科
 社会
 体育

送信

定期テスト前の学習会の実施について

1. ねらい

- (1) 定期テスト前に学習の時間を確保することにより、自ら学習に取り組む機会を設定する。
- (2) 教科担任等に分からないことを質問する機会を設定することで、基礎学力の向上を目指す。

2. 日 時

2学期期末テスト対策 11月16日(月)・17日(火) 2日間

3. 教 科

11月16日(月)：国語、数学

11月17日(火)：社会、理科、英語

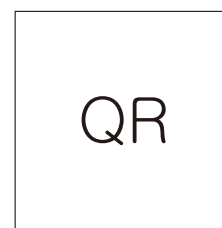
4. その他

- (1) 清掃終了後、30分間実施。終了後使用教室を清掃します。
- (2) 学習課題は参加者が自分で準備することとします。
- (3) 参加人数によって、使用する教室と監督者を決定します。
- (4) 先生に分からないことを質問することもできます。

<申込について>

右のQRコード（または以下の URL）からアクセスし、申し込んでください。参加しない場合も、参加しない旨をチェックしてください。

緑陽中学校2学期期末テスト学習会



参考資料

文部科学省『小（中）学校学習指導要領』平成29年3月告示

文部科学省『小（中）学校学習指導要領解説 総則編』平成29年6月告示

文部科学省 HP

国立教育政策研究所 HP

北海道教育委員会 HP

令和2年度 胆振教育研究所 所員一覽

役職名	氏名	所属学校	職名
所長	野崎 均	登別市立緑陽中学校	校長
副所長	立花 和実	伊達市立伊達中学校	校長
事務局長	高橋 賢治	登別市立富岸小学校	主幹教諭
事務局次長	村井 淳一	伊達市立伊達中学校	主幹教諭
所員	本所 章宏	伊達市立伊達小学校	主幹教諭
所員	武田 成永	登別市立緑陽中学校	主幹教諭
所員	藤田 宣夫	登別市立幌別西小学校	教諭
所員	石井 芳政	伊達市立伊達西小学校	教諭
所員	宮崎 雄太朗	伊達市立光陵中学校	教諭
所員	黒川 知恵	白老町立白老小学校	教諭
事務職員	水留 恵美子	胆振教育研究所事務所	

あとがき



年度の締めくくりの時期となりました。今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向け、各学校において様々な取組に尽力されたことと思います。皆様におかれましては、子どもたちとともに、何より健康に締めくくることが出来ますよう心より祈念しております。

さて、新学習指導要領においては、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を通して、資質・能力の三つの柱がバランスよく育まれるようにするとともに、学習の基盤となる資質・能力として、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等が育成されることが重要となります。

そこで、本研究では「情報活用能力の育成」、とりわけ、関連の深い ICT にスポットを当て、ICT に関わる胆振管内における各校の取組状況の把握、様々な実践を紹介・交流することで、私たち教員の指導力向上の一助になればと思い、調査を進めてきました。

調査を終えて感じていることは、新型コロナウイルス感染症対策はもちろん、新学習指導要領の実施、休校期間が長引いたことによる児童生徒の学びの保障をするための時数確保など、日々の教育活動に追われ、まだまだ ICT 活用へ向けた取組の充実まで手を回すことに困難を感じている学校が多いということです。今までできていた学習活動や行事ができなくなり、年間指導計画の変更に次ぐ変更…。教えなければならないことをどう教えるか、限られた時間の中で、学習内容に漏れや落ちがないようにするためにはどうしたらよいか、そんなことを考えるだけで精一杯の1年だったように思います。

しかし、ご存じのように GIGA スクール構想の前倒しにより、来年度始めにはほとんどの学校で児童生徒に1人1台のタブレット等が配備され、それを活用した授業をしていくことが求められます。また、新型コロナウイルスの感染状況によっては、「再び長期間の学級・学年閉鎖」、「児童生徒の学びの保障のためのオンライン学習の活用を1人1台の端末で」などということも十分考えられます。

今私たちに必要なことは「とりあえずやってみる」ことだと思います。本紀要では、現在ある環境で懸命に取り組まれている ICT 活用に関わる実践を多く紹介しています。必要であれば、各学校間で連絡を取り合っ情報交換することも可能です。本研究紀要が各学校で活用され、今後の教育活動に生かされることを願っております。

結びになりますが、ご多用のところ、アンケート調査にご協力いただきました胆振管内の各小中学校の教職員の皆様に心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

担当所員
石井芳政

令和2年度 研究紀要 第231号

調査課題研究

ICTの効果的な活用に関する調査

～アンケート結果の報告と考察～

発行年月日 令和3年3月3日

発行 胆振教育研究所

代表者 所長 野崎 均

印刷 (有)村上印刷